

NPO法人フォレストアカデミージャパン理事会（役員会）

会 議 録

日 時：平成25年1月21日（月）13:30～16:30

場 所：日南町林業総合センター 1階 事務室

1. 開 会

矢田理事長：NPO 法人フォレストアカデミージャパン事務所にて 13:30 開会を告げる。

出席理事の確認

森英樹（理事）・福岡正純（監事）・欠席

	平田広志 （監事）	浅川三郎 （理事）	
			矢田治美 （理事長）
黒田幹也 （理事）	入澤 淳 （理事）	福原 實 （副理事長）	

2. 理事長挨拶

森理事・福岡監事欠席を伝え、提言に向けての最終協議お願いする。

3. 会務報告

矢田理事長：

特定非営利活動法人主たる事務所移転登記申請について、1月16日に鳥取地方法務局に関係書類を提出した。本日受理した旨の連絡が入った。

4. 協議事項

(1) 町行政に対する要望・提言について

矢田理事長：

1月23日（水）午前9時から町長・議長へ役場で提出することで日程調整ができた旨を報告する。

別紙の提言本文と原案と検討後の比較表をもって、内容について説明する。

後継者対策にあたって、人材育生、後継者対策は行政の責任として、先般町長にその内容を協議してみたが、町長の基本的な考えは、機械を導入したのでそれに関わる人材育生は企業がやるべきとの見解であった。

浅川理事：

行政内部、各課がもっと勉強を深め考えるべきである。役場の中のシンクタンク基本的な考えが無い。

福原副理事長：

基金運用の基本はあると感じる。その実働に向けてどの様な提言をすれば良いのか。事務の縦割り主義が感じられる中で、どの様な提言の仕方が有効なのか、提言してもたらい回しされる。

浅川理事：

TPPへの国の取り組みに対する対応が必要となる。視点を変えて貰う必要がある。地方を見捨てられる。日本の文化を経済原則から見捨てない。内需拡大を訴える。その具体策としてこの提言がある。日本の文化を守り、地方中心の循環型社会を再構築することを強く訴える。田舎から国へ逆提案して行く。

入澤理事：

TPP、林家が先に犠牲になっている。

浅川理事：

三本柱の一本を削られてから経済が悪くなった。エネルギーは買電で収益の認識を改める。エネルギーを産業にいかにかすべきか考えるべきである。

福原副理事長：

安心に住める町、地域づくり、ゆったりと過ごせるのは農山村であることの認識が必要である。民主主義は数の世界で、農山村は何をしても一番最後である。

入澤理事：

安心したバイオマスに対する基本的な日南町としての姿勢が明確になっていない。熱発電の基本ではなく、森林の町日南町としては、原材料を基本として「提供」することを基本とする。

黒田理事：

勝算があれば誰もが手を挙げると思うが、県内でも2、3しか立ち上げっていないことから、実施に向けては相当のディスクがあるからと思う。あとコスト面を含めて地産地消として採算がどうなのか問題になる。

入澤理事：

効果有ることを設定した上で考える。方向性を見いだすことが重要である。資材生産業者。

福原副理事長：

熱源としてのバイオマスを基本とする。発電利用は無理と感じている。

矢田理事長：

今回の太陽光発電は、過疎債、町民債で対応しているが、その収益活用方法は明らかでない。

福原副理事長：

都会と田舎を比較して一番感じるのは、生産コスト、利便性であると思う。生活のコストを下げるためにバイオマスを活用した温熱利用にする。

入澤理事：

人間は暑いのは我慢できるが、寒いのは我慢できない。そこにバイオマスを活用した薪ストーブの普及が考えられる。

福原副理事長：

行政は評価はするが、「いっしょにやろう！」という姿勢がない。

入澤理事：

担当の課長も加えて話をする必要があるのではないのか。この業界しか見えない。行政と農業者・林業者・企業が一緒に考える。

平田監事：

別の組織で検討する必要がある。

矢田理事長：

要望する中で、今までの話をしていくことが重要である。

福原副理事長：

「電気の供給」の言い方はどうなのか。「等(など)」でよいと考える。→「等」に表現
冬季対策として、そこに就労が生まれる対策を考える。

黒田理事：

有機肥料を作るための施設は現在もある。燃やすことを目的としたウッドチップは元に戻らないが、乾燥チップは、管理を徹底しないと湿度が元に戻る。自然乾燥ローテーションでは、ある程度のローテーションで回すことになり、可能ではあるが大量的には無理である。

福原副理事長：

温熱を利用しながら乾燥させていく。

黒田理事：

余った資源を利用して、乾燥することが理想である。

浅川理事：

焼却場を毎日稼働できるようにして熱利用を図れば大きな成果があがる。

平田監事：

工場が活用するとしても祝祭日、休日が影響する。

黒田理事：

利用するとしてもその供給ラインが大変な規模になって、限られたエリアになってしまう。

矢田理事長：

後継者対策について協議を求める。

浅川理事：

後継者と人材育生のつながりは。

入澤理事：

「緑が好きだから、山が好きだから」安直な考えでは、即戦力にならない。行政間での募集内容の情報提供と斡旋業務の必要性を感じる。

福原副理事長：

日南町だけの地域に限った人材育生ではなく、全国を範囲として人材育生の場とする。

黒田理事：

資格について、何年間かで取得できる制度として明確化する。

入澤理事：

来たら10万円、3年過ぎたら30万円、住環境の整備等町が準備する等、思い切った施策が必要である。

福原副理事長：

女性の雇用の場の確保に繋げる必要がある。

入澤理事：

募集条件として、住宅の整備を明記して欲しい。

浅川理事：

社会保険料の補助は大きな役割を果たしている。新規雇用に対して一定の年限で補助されている。

募集範囲の中に東日本方面、表現には留意して入れる。

入澤理事：

募集条件の絞り込みもある面では必要になってくる。

浅川理事：

農業については政策で個人にお金が出ていくが、これは産業の振興、改革には繋がっていない。生活費に消えてしまっている。貰い慣れ。

福原副理事長：

将来が見えてこない。高齢化、オペレーターがいない中で当面のことに集中せざるを得ない。

入澤理事：

コスト削減の為の機械化が進んでも、コスト低下に至らない。

黒田理事：

一日あたり、年間あたりの生産量は上がっている。損料、有効活用度、更新等も考える中で、高性能機械導入イコール、即コストダウンには至らない。

矢田理事長：

オペレーター養成は「企業体の責任」が町長の基本的なスタンスである。

入澤理事：

この部分の人材養成は、どちらとも言い難い面がある。

矢田理事長：

「人材育生と後継者対策について」とし、変更後の内容で提言することを確認する。

矢田理事長：

3番めの求人と求職者とのミスマッチ解消について協議を求める。

浅川理事：

地域のブランド化は非常に重要なことではあるが、難題である。

米などの現状を見てもバラバラな取り組みで、個々の利益のためだけになっている。

山上の高橋さんの特産米の取り組みは非常に良い傾向であり、ブランド化への大きな力である。

入澤理事：

ネット販売は限界がある。

浅川理事：

大阪のバイヤーと協議して日南町の売りをアピールする。しかし、各々が個々に行って会っている。バラバラでな動きで組織だっの動きになっていない。

黒田理事：

アンテナショップを立ち上げて取り組んでいるが、統一の方向にして大きな力として結集されるべきではないかと感じる。

浅川理事：

ブランド化と地域振興公社のあり方が大きな課題となってくる。

議員の中で製材所を上にあげるとの声があがっているようだが、以前からの検討事項であり、是非実現を図るべきである。

福原副理事長：

今のスペースで対応できるのか。

入澤理事：

何でも上にあげる施策は、「オロチとは？」に対する主が薄れる。オロチのスタンスをもっと明確に捉えて行かなければならない。

浅川理事：

安定営業、オロチがしっかりした姿に至るまでには時間がかかる。生産と販売が一体となる必要がある。

黒田理事：

過疎化と過疎計画に密着している。

入澤理事：

日南町を客観的に見る必要がある。これからの若者はその見る力を持って欲しい。

浅川理事：

田舎の文化を守る。「ぶなの木」田舎の文化をしっかりと出していく。
水のしづくから、小川、川、海、プランクトン、魚の餌、人間の生きる力、循環型社会の
形成

黒田理事：

町外へかなりの者が出ているが、帰って生活される人があるのか。
工場、勤務条件を整えれば全国から集まってくる。

浅川理事：

中山間地域の生活環境の改善、安定の為の産業振興に取り組むことが、町のブランド
化の一つである。

矢田理事長：

ヨーロッパあたりは、林業について制度化されているが、全体の施策の中でミスマッチ
を解消していくことが大事である。森林の振興で雇用の場の確保、若者の定住が図ら
れ、これらのミスマッチが解消される。

矢田理事長：

4番の地域資産有効活用の為の施策について協議を求める。

福原副理事長：

智頭町の100人委員会は高齢化のため、全町民の会に変更された。

黒田理事：

不在村山林所有者が離す場合、率先して取得していく考えがあるのか。

入澤理事：

登記料が高額である。行政が受けることで軽減できる。

「負の財産」と言われた人がある。

浅川理事：

石見商事の社長から日南町に所有している山林を手放したいとの問い合わせが入っ
ている。情報として共有しておいて欲しい。

入澤理事：

町が関わることによって、同様の取り組みをしても信用度が上がる。

矢田理事長：

相談窓口の設置。意向調査においてもかなりの期待感を抱いている者が多かった。

福原副理事長：

何らかの関わりを行政として持つことを確認して欲しい。

黒田理事：

第三者に変わって実践しやすくなる。当初の目的を達成できる。

矢田理事長：

地下水で規制をかけて訳であり、山林についても何らかの規制をかけていくべきであ

る。鳥大の教授も、行政に色々と話をしてくれているが、あまり積極的な姿勢は見られないと言われた。

福原副理事長：

全体に積極的に取り組むという姿勢がない。

黒田理事：

海外資本の買い取りも遠くの話し、他人事ではない。

入澤理事：

マスコミ報道の関係で動きが無くなった様な雰囲気があるが、全く無くなったという意味ではない。と言って今すぐそうなるという問題でもないが、注意しなければならない。

矢田理事長：

制度上 NPO が直接関われない場合は、森林委託で NPO の流れもあり得る。

入澤理事：

本事業への人材配置が重要である。

矢田理事長：

今回の提言・要望は、4項目とすることを確認する。

(2) 今後の主な日程について

矢田理事長：

今後の日程について、確認する。

今回役員改選期 2月28日任期満了に合わせた動きと、総会を役員改選の臨時総会及び決算に合わせた通常総会の2回開催となる。

2月14日(木)役員会

2月21日(木)臨時総会(役員改選)

4月26日(金)この頃に通常総会(決算総会)

全理事:了解

(3) NPO法人フォレストアカデミージャパン業務報告会開催について

矢田理事長：

NPO 法人フォレストアカデミージャパンの報告会開催について協議を求める。

別紙の狩野さん作成原案について説明する。

福原副理事長：

4月末播種の時期、3月末年度末、4月初め年度始め等々、4月中旬くらいか。

入澤理事：

第一か第三の土日の方が職員に声をかけやすい。可能であれば4月21日・22日の土日を希望する。

福原副理事長：

林業まつりと抱き合わせにはならないか。

黒田理事：

業務報告としてここまでの範囲、規模が必要なのか。

矢田理事長：

NPO 事業の実績として捉えていく。

福原副理事長：

通常総会までの実績に位置づける必要があるのか。

入澤理事：

今から時期、時間的なものは大丈夫なのか。何ヶ月先の方が交通費の割安になるし、今からこれだけの規模のものに取り組めるのか。年度末、年度始めを含めての中では非常に厳しい。

平田監事：

4月までにやらなければならない理由があるのか。

入澤理事：

4月まででなくてよかったら、林業まつりの反省を含めて、林業まつりと抱き合わせも検討してもよいと感じる。

矢田理事長：

3月、4月開催の是非を確認して、方向性を決定していく。

矢田理事長：

23日提言への出席者を確認

矢田理事長：福原副理事長：浅川理事：黒田理事：平田監事：

今日の協議内容で最終的にまとめ、明日完成品を出席者には FAX する。

(4) その他

浅川理事：

赤松産業の話はその後どうなったか。

矢田理事長：

直接の確認はその後行っていない。

山本：

狩野さんが対応された内容は前回記録して報告協議されたが、その内容のとおりで県の森課長が是非炭化に係る調査を NPO でやって欲しいとの申し入れをされたことを再度報告する。

4. その他

5. 閉 会

矢田理事長:16:30 閉会を告げる。